

第2章「新入生の保護者調査」の結果

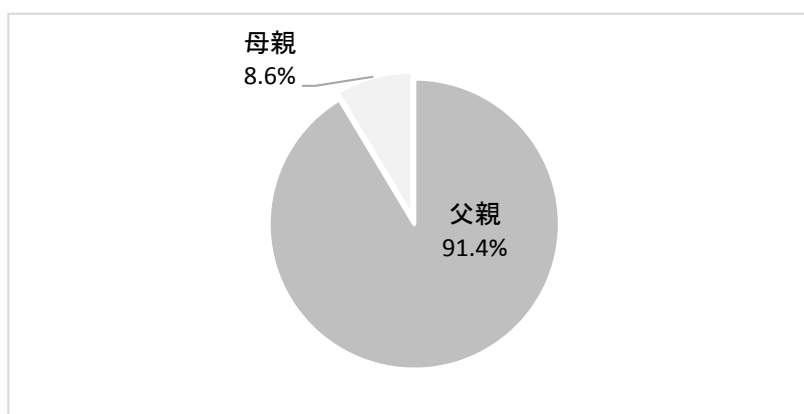
第2章では、新入生の保護者343名に対する調査結果について報告する。

(1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者の年収、④世帯年収、⑤大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

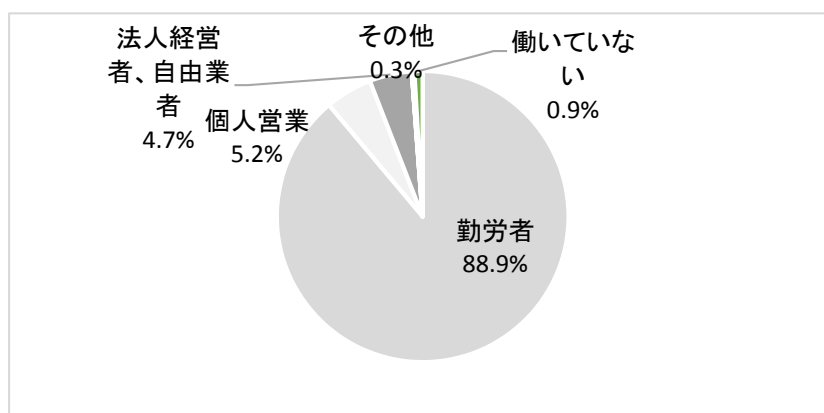
図表 1-1 は、新入生の主な家計支持者についての結果である。主な家計支持者は、全体の91.4%が「父親」、8.6%が「母親」である。平成27年度新入生の保護者も同様の傾向であった（お茶の水女子大学 2016）。



図表 1-1 家計支持者

② 家計支持者の職業

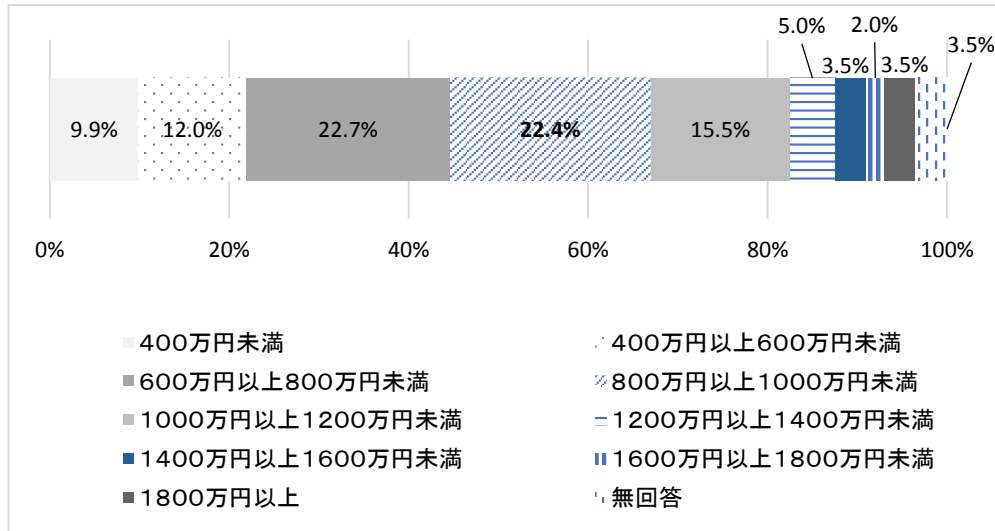
図表 1-2 に、家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の88.9%を占め、次いで「個人営業」が5.2%である。平成27年度新入生の保護者も、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2016）。



図表 1-2 家計支持者の職業

③ 家計支持者の年収

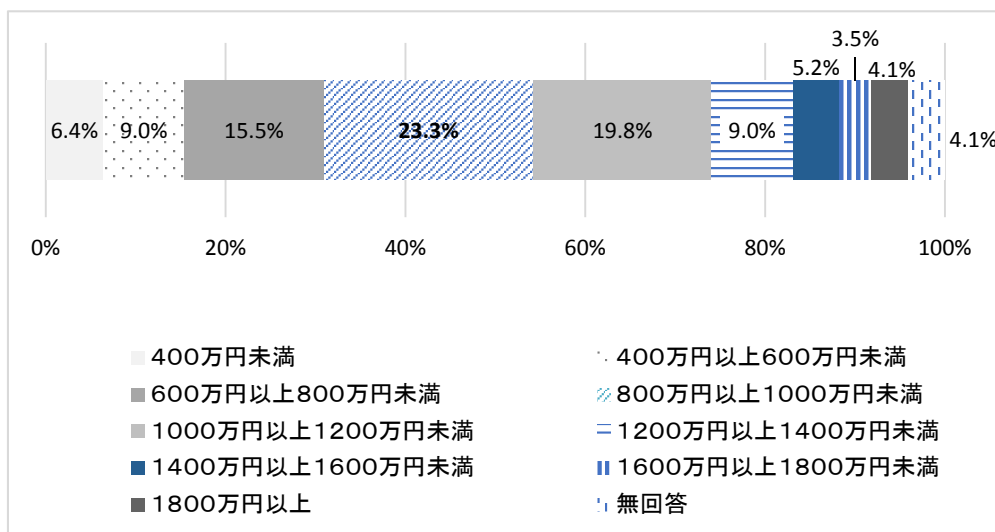
図表 1-3 に新入生の家計支持者の年収について示す。「600 万円以上 800 万円未満」22.7%が最も多く、次いで「800 万円以上 1000 万円未満」22.4%、「1000 万円以上 1200 万円未満」15.5%と続いている。この傾向は平成 27 年度新入生の保護者とほぼ同様である(お茶の水女子大学 2016)。



図表 1-3 家計支持者の年収

④ 世帯年収

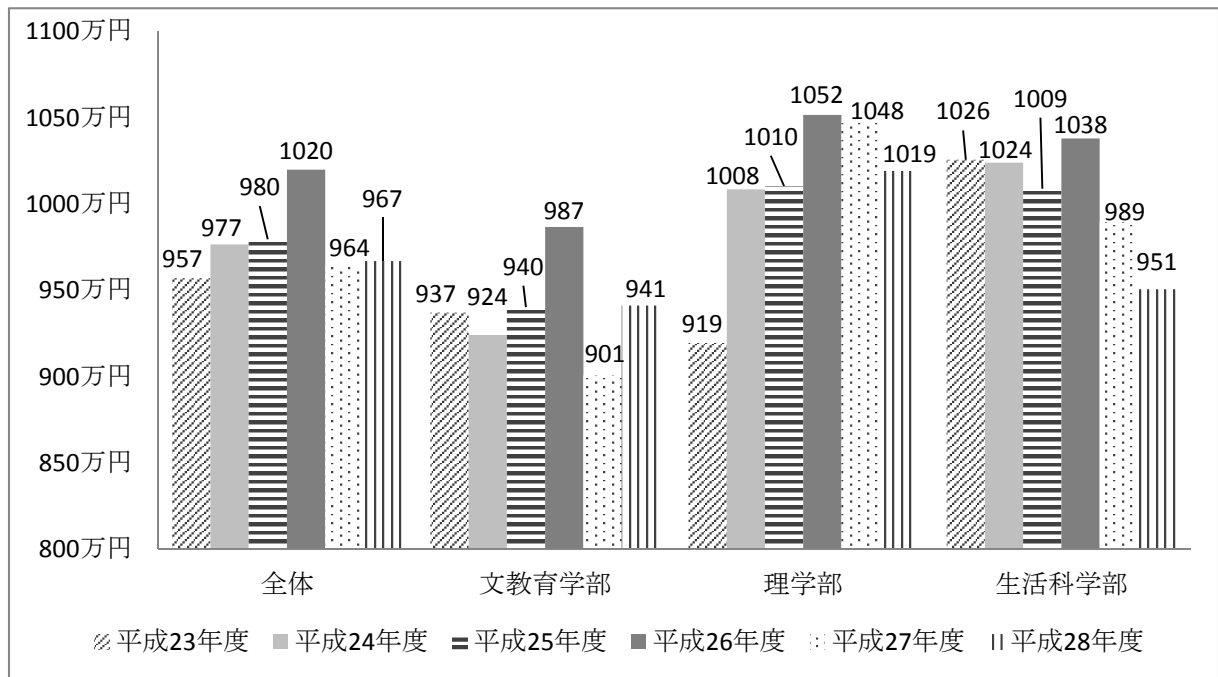
さらに、新入生の家庭の世帯年収について、家計支持者同様に尋ねた結果が図表 1-4 である。全体で見ると、「800 万円以上 1000 万円未満」が 23.3%と最も高く、「1000 万円以上 1200 万円未満」19.8%、「600 万円以上 800 万円未満」15.5%がそれに続いている。



図表 1-4 世帯年収

『平成 26 年度学生生活調査』(日本学生支援機構 2016)によると、家庭の年間収入別学生数の割合(大学昼間部)について、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 24.4%、国立大学・女

子では 27.2%である。それに対し図表 1-4 に示すように、本学新入生の家庭のうち、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭は少なくとも全体の 41.6%を占めており、家庭の世帯年収が全国水準に比べて、高い方に偏っている。平成 27 年度新入生でも同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2016）。参考に、図表 1-5 に、各カテゴリーの中央値に基づき、平成 23 年度以降の新入生の家庭の世帯年収平均（推計）を算出したものを示す。平成 26 年度新入生の平均世帯収入が他の年度より高いこと、生活科学部の平均世帯年収が低くなる傾向にある。そのほかは同程度の平均値で推移している。

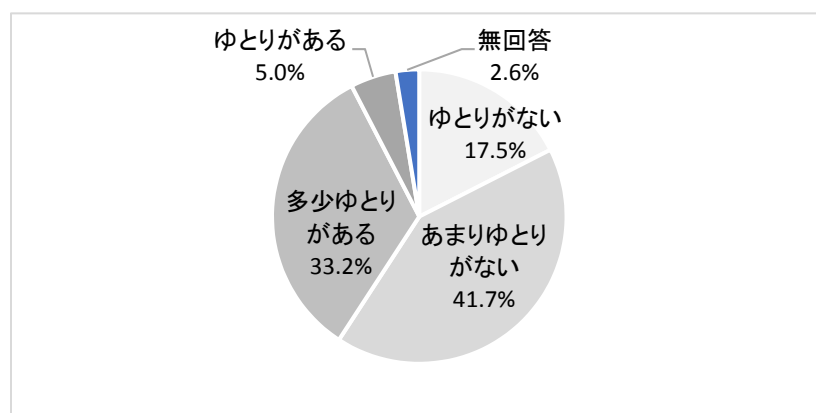


図表 1-5 世帯年収平均（推計）

⑤ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-6 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体で見ると、「あまりゆとりがない」が 41.7%と最も高く、「ゆとりがない」17.5%と合わせると全体のおよそ 6 割に及んでいる。



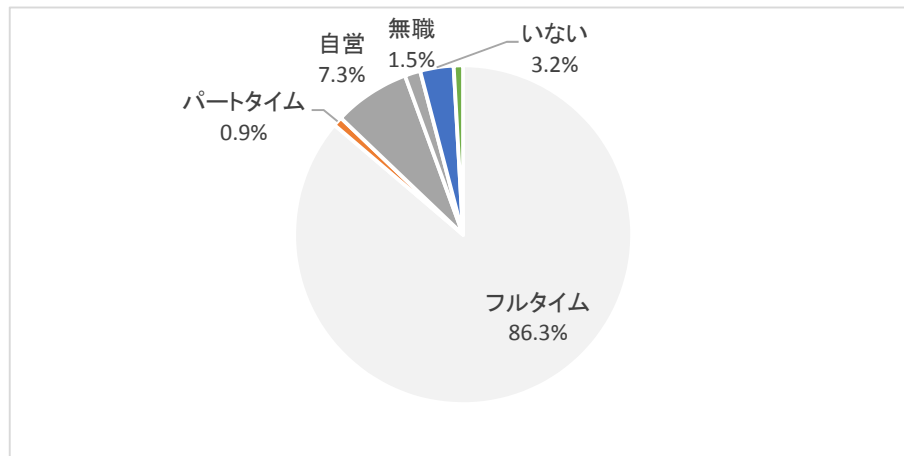
図表 1-6 入学した後の家庭の暮らし向き

(2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

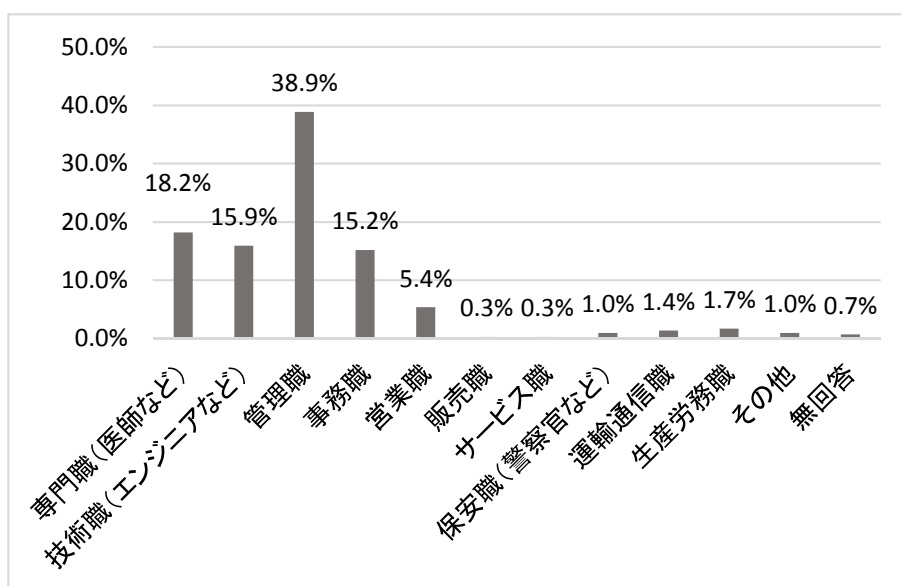
① 親の勤務形態および職種

図表 2-1 は、新入生の父親の勤務形態について、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」別に尋ねた結果である。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 86.3% と約 9 割を占め、次いで「自営」が 7.3% である。これらの勤務形態の割合は例年と同様である。



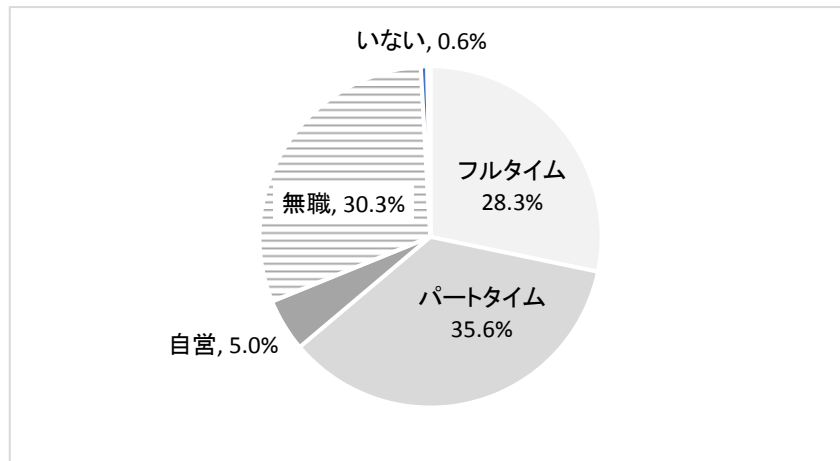
図表 2-1 父親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する父親だけに職種について尋ねた結果を図表 2-2 に示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）38.9% である。次いで、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）が 18.2%、技術職（エンジニア・情報処理技術者など）15.9% である。



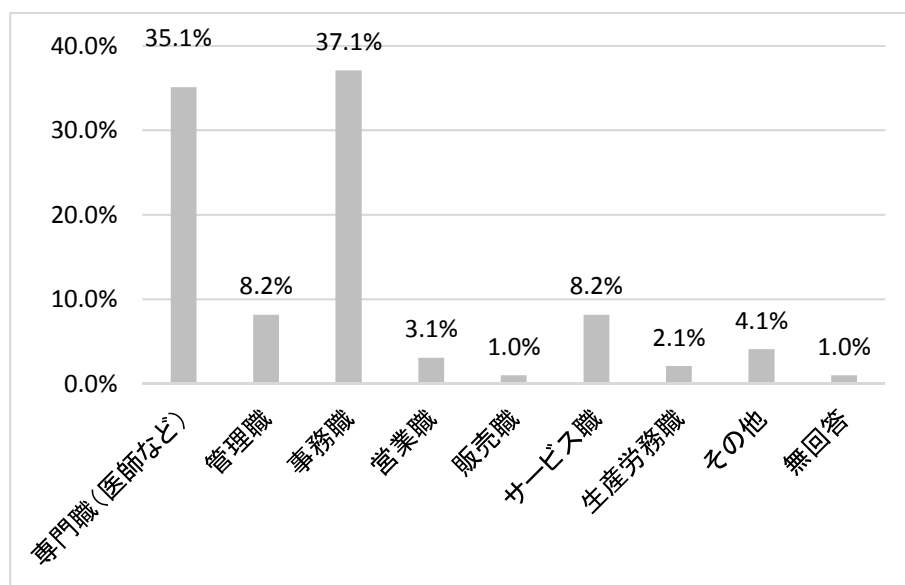
図表 2-2 父親の職種

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。「パートタイム勤務」が全体の 35.6%で最も多く、「無職」30.3%、「フルタイム勤務」28.3%が続いており、平成 27 年度新入生とほぼ同じ傾向である（お茶の水女子大学 2016）。無職が約 3 割であることから、新入生の約 7 割の母親が就業していることが示されている。



図表 2-3 母親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する母親だけに職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す。最も多い職種は、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）37.1%である。次いで、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）が 35.1%、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）8.2%、サービス職（美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など）8.2%である。父親と比較をすると、母親は専門職および事務職の割合がそれぞれ 3.5 割程度と高く、管理職は 1 割弱と少ない。反対に父親は、管理職の割合が 38.9%であり。母親の管理職 8.2%と比べると高い割合を占めている。

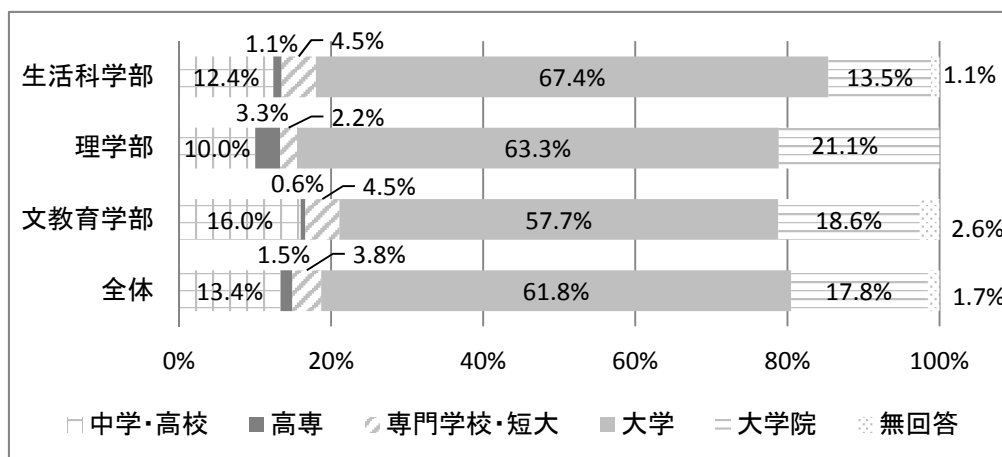


図表 2-4 母親の職種

② 親の学歴

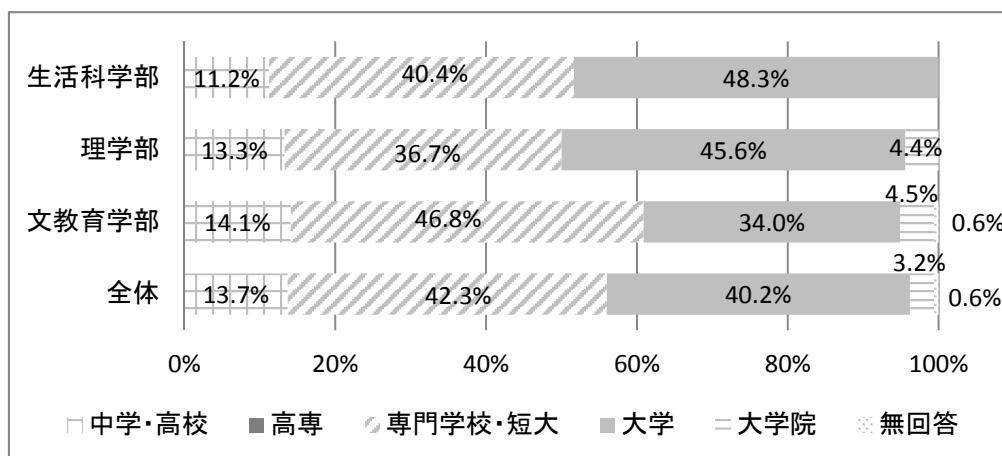
図表 2-5 は、新入生の父親の最終学歴について尋ね、「大学院」「大学」「専門学校・短大」「高等専門学校」「中学・高校」別に示した結果である。新入生の父親の最終学歴は、全体でみると、「大学」が 61.8%と最も高く、それに「大学院」17.8%、「中学・高校」13.4%が続いている。平成 27 年度新入生の父親も、同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2016）。

学部別では、「大学」「大学院」を合わせた割合が、理学部では 84.4%であり、父親の学歴が高い傾向が見られる。『平成 22 年度国勢調査』（総務省統計局 2011）によると、最終学歴が大学・大学院である男性は 28.7%であり、これと比較すると平成 28 年度新入生の父親の学歴は高いほうに偏っており、この傾向も昨年と同様である。



図表 2-5 父親の最終学歴

同様に、新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果が図表 2-6 である。平成 28 年度の新入生の母親の学歴は、全体で「大学」40.2%、「専門学校・短大」42.3%となり、「中学・高校」が 13.7%である。学部別では、生活科学部では「大学」が 48.3%と高く、また「大学・大学院」卒を合わせると理学部が 50.0%と高い割合となっている。『平成 22 年度国勢調査』（総務省統計局 2011）によると、最終学歴が大学・大学院である女性は 20.6%であり、これと比較すると父親と同様に平成 28 年度新入生の母親の学歴も高いほうに偏っている。



図表 2-6 母親の最終学歴

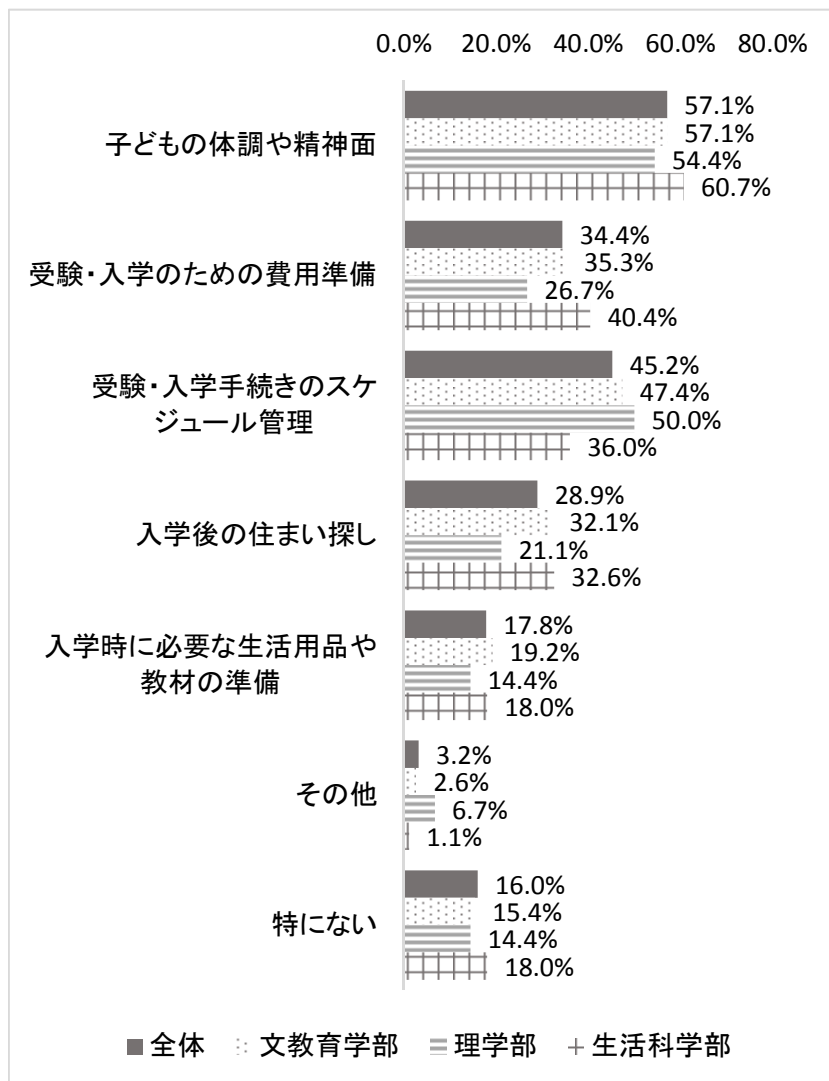
(3) 大学生生活の不安・心配事

本節では保護者から見たご子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

① 受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 は、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果である。

困ったことについては、「子どもの体調や精神面」が全体の 57.1%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が全体の 45.2%でそれに続いている。「特にない」は全体の 16.0%であった。これらの結果は、平成 27 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2016）。学部別では、生活科学部は「子どもの体調や精神面」「受験・入学のための費用準備」について困ったと回答する保護者の割合が他学部比べて高い。

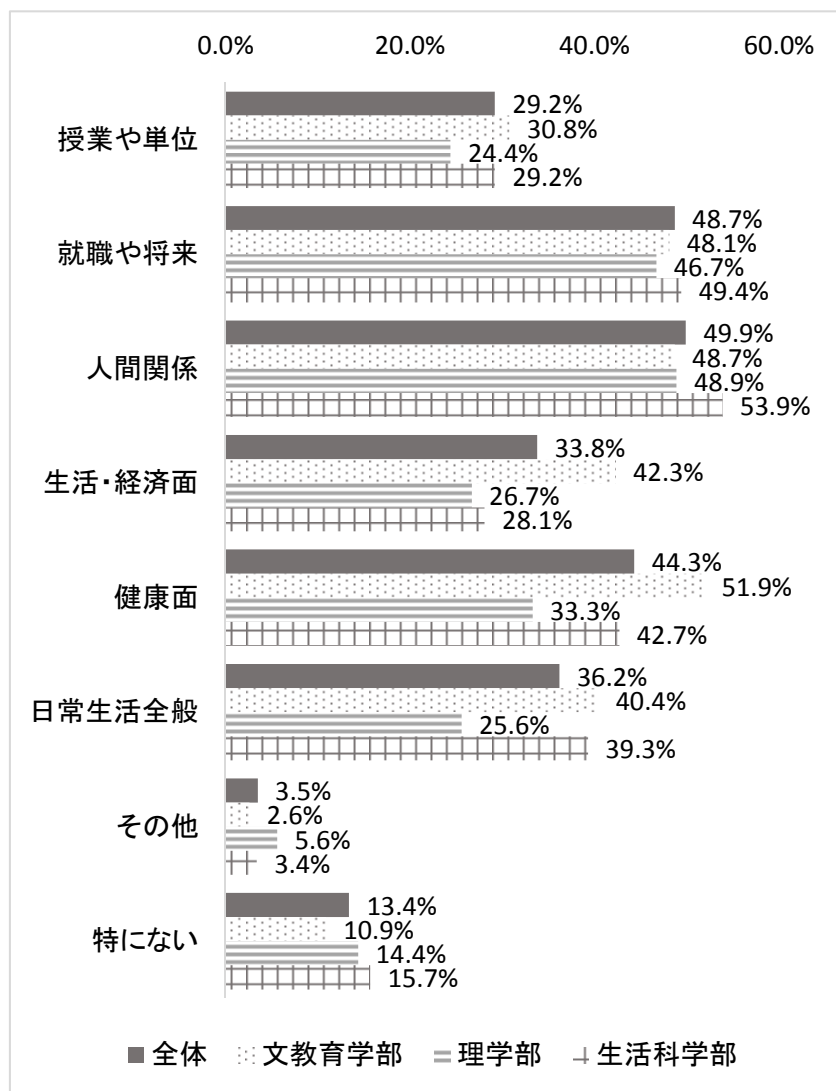


図表 3-1 受験から入学までに困ったこと

② 大学生活が始まって心配なこと

図表 3-2 は、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。心配なことについては、「人間関係」が全体で 49.9%と最も高く、「就職や将来」48.7%、「健康面」44.3%がそれに続く結果となっている。平成 27 年度および平成 26 年度新入生の保護者では、「就職や将来」が最も高く、今年度は傾向がやや異なった（お茶の水女子大学 2016）。「特にない」は全体の 13.4%である例年と大きな差異はみられない。

学部別では、理学部において「授業や単位」「生活・経済面」「日常生活全般」を心配する保護者の割合が低い。

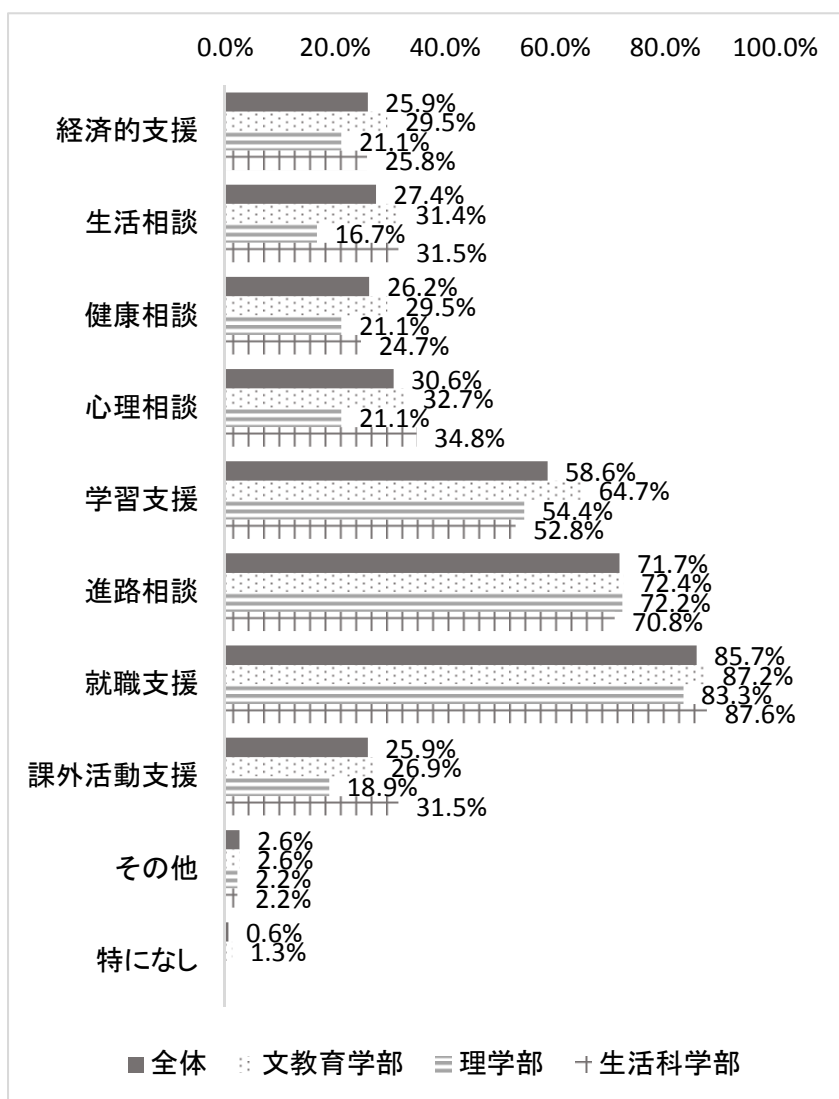


図表 3-2 大学生活が始まって心配なこと

③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果である。

「就職支援」が全体の 85.7% で最も高い。次いで「進路相談」 71.7%、「学習支援」 58.6% がそれに続くが、平成 27 年度新入生の保護者でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2016）。学部別では、文教育学部では「学習支援」が 64.7% と他の学部より高く、生活科学部では、「課外活動支援」が 31.5% と他の学部より高いことが示された。



図表 3-3 本学の学生支援活動で期待するもの

